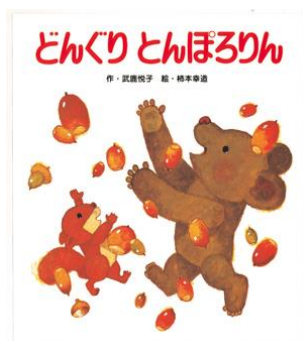




逆瀬川あゆみ保育園 子育て支援すくすく

本郷由香 2025.10.8

皆さん、絵本は好きですか？絵本には沢山の魅力が詰まっています。今年度は、絵本に関する書籍を活用しながら《絵本について》ちょこっとお伝えしていきたいと思います。



10月の絵本紹介



『どんぐりとんぼろりん』

武鹿悦子作/柿本幸造絵/ひさかたチャイルド

どんぐり拾いに出かけた、りすさんとくまさんのお話です。柿本さんのあたたかい絵が素敵でほっこりします。特に、ぴかぴかのどんぐりは、宝物のようです。どんぐりどんぐり とんぼろりん♪というリズムカルな文章も楽しく、繰り返し見たくなる絵本です。

『ぐるぐるちゃん』

長江 青 文・絵/福音館書店

りすのぐるぐるちゃんが、お母さんとどんぐり拾いに出かけます。どんぐりをぼりぼりと食べた後は、りすさん特有のほっぺぶっくりポーズ！そして、しっぽにぎゅっぎゅっとどんぐりを詰めてお持ち帰り…。親子の秋の1日を一緒に楽しめる、そんな絵本です。

【くり返し同じ絵本を読みながら、子どもたちは自分の味わった心の動き、心の状態、感情を味わいなおし、より深くより豊かにしていっているのでしょうか。しかも心の動きだけでなく、何度も読むうちに絵の隅々、文章の一語一語から新しい発見をしています。】

～『もっかいよんで』田代 康子 ひとなる書房より～

絵本を読んでいると、本の題名のように「もっかいよんで！」という言葉は、子どもからよく聞きます。好きな絵本なら、終わるたびに何度も「もっかい！」と。大人は徐々に飽きてきて、そろそろ違う絵本にしない？と思ったり、言ってしまう事もあるかもしれません。しかし、田代氏の書かれているように、子どもは繰り返し楽しむことで、心をより豊かにしたり、毎回新鮮な発見をしているのですね。子どもにとっては単純に『同じ絵本』ではなく、『何度も読むほどに味わいを感じ、発見がある絵本』なのでしょう。また、先月に書いた“安心感”も繰り返しの中で感じている、と思います。子どもにとって繰り返しは、とても意味のある大切な事だと言えます。大人としては、少し疲れる部分もあるかもしれませんが、子どもの柔軟な世界を体験する機会ととらえ、繰り返しの中での新たな発見を一緒に楽しめるといいですね。

